

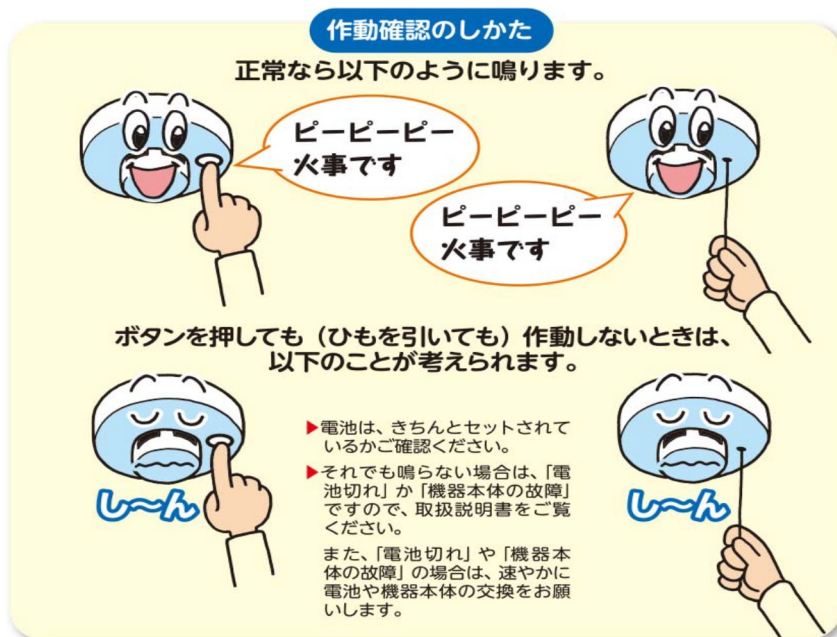
住宅用火災警報器 を点検しましょう



住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。

10年を目安に交換しましょう。

10年に満たなくても作動確認により、電池交換や本体交換が必要になる場合があります。



火災警報器を設置したとき記入した「設置年月」、または、本体に記載されている「製造年」を確認してください。

新しい火災警報器に交換したら、本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。